

意見書

令和3年12月23日

三種町教育委員会
教育長 藤田 良博 様

三種町立小・中学校再編準備委員会
委員長 近 藤 国 義

1. はじめに

本町の児童生徒の減少が進む中、令和2年7月に「三種町立小・中学校の在り方検討懇談会」が設けられ、将来の教育の機会均等や教育水準の向上を図るための望ましい教育環境について検討を重ね、「意見書」が提出された。それを基に、三種町教育委員会での協議を経て、三種町総合教育会議に諮り、令和3年1月に「三種町町立学校再編整備計画」が策定された。

本計画では、再編整備に係る基本的な考え方が示されるとともに、再編計画として、小学校は琴丘・山本・八竜3地域に各1校とすること、中学校は町1校に統合し、新中学校は、山本中学校グラウンド内に建設することが示された。計画策定後、三種町議会全員協議会で説明が行われるとともに、町民説明会や保護者説明会が実施された。また、三種町議会では3月及び6月定例会において一般質問があった。学校再編への方向性については、いずれも異論はなかったが、統合中学校の建設候補地選定については、もっと十分な協議が必要であることや、他の建設候補地を推薦する意見が出された。

そうしたことを受け、令和3年度において「三種町立小・中学校再編準備委員会」が設置された。当委員会は、学識経験者、民生委員、PTA・保護者会、校長会、自治会代表及び一般公募からなる29名で構成され、建設候補地選定等について協議を重ねてきた。

2. 再編準備委員会での協議

(1) 6月29日 第1回再編準備委員会

事務局より学校再編の経緯や、建設時期、統合小・中学校の設置場所等について説明があり、再編の方向性として、小学校は3地域に各1校、中学校は町1校に再編とすることを確認した。

統合中学校の建設候補地について山本中学校敷地内、琴丘中学校・ことおか中央公園内と、じゅんさいの館付近の水田とし、大まかな建設費用や活用財源、建設期間、各地域からの距離等について資料の提示があった。協議の中で八竜中学校周辺を候補地とする要望があり、追加することとした。(資料1)

(2) 8月5日 第2回再編準備委員会

第1回再編準備委員会の意見を踏まえて、統合中学校の建設候補地を、山本中学校敷地内、琴丘中学校・ことおか中央公園周辺、八竜中学校周辺、二ツ森地区周辺(水田・畑地)の4カ所とした。最初に各候補地ごとの校舎配置をシミュレーションした航空写真を示し、検討項目(①校舎・体育館の建設地、②その他の必要な施設、③学校までの距離、④通学の安全性、⑤スクールバスの利用、⑥完成年度、⑦用地買収)を設けて、グループ及び全体会で協議を行った。

次に、各候補地の「よいと思うところ」「課題と思うところ」「疑問点」について意見を出し合った。(資料2)

(3) 10月7日 第3回再編準備委員会

第2回再編準備委員会で出された課題をどう解決できるか、事務局より現状や考えられる対応について、課題解決のための7つのポイント(①通学路、②防犯、③防災、④通学路と時間、⑤施設、⑥熊の出没状況、⑦その他)に基づいて説明を受けた。その説明に対し、グループ協議や全体会で質疑を行った。また、建設候補地を二つ程度に絞り込んでいく時期との意見が出され、現時点での意向調査を実施した。その結果は、第1候補地として山本中学校敷地内64%、第2候補地として琴丘中学校・ことおか中央公園周辺54%となった。

(資料3, 4, 5)

(4) 11月3日 統合中学校建設候補地視察会

第3回再編準備委員会で示した資料をもとに、建設候補地それぞれによさや、課題について再確認するとともに、課題についての対応策について、事務局より説明があった。(資料6)

(5) 11月12日 第4回再編準備委員会

事務局より、統合中学校建設候補地視察会の様子や第3回再編準備委員会での意向調査の結果が説明された。

会議では、候補地視察会を受けて再度意向調査をしてほしい、文部科学省の指針を基に再評価し直し、もっと時間をかけてやるべきだとの意見が出された。これに対し、複式学級の解消のために先延ばしせず、子どもたちのために再編を急ぐべき、これまで自分たちが検討してきたことが大切である、意向調査で過半数を占めた建設候補地2つに絞って検討を進めるべきとの意見も出された。

結果、山本中学校敷地内と、琴丘中学校・ことおか中央公園周辺の2か所を統合中学校の候補地として、意見書をまとめていくこととした。(資料6)

(6) 12月20日 第5回再編準備委員会

起草された意見書について協議し、その内容を決定した。

3. 提言

統合中学校の建設場所は、山本中学校敷地内あるいは琴丘中学校・ことおか中央公園周辺のいずれかを適地と考える。

I. 山本中学校敷地内

(1) 建設の適地とする理由

- ①委員を対象とした意向調査において、第1候補地として64%を占めた。
- ②敷地内に主要施設を配置できる。また、公共施設（山本体育館、山本球場等）の利用もできる。
- ③令和4年から令和7年度までの工事で、令和8年度に開校が期待できる。
- ④合併特例債等の活用ができ、財源について見通しをもって対応できる。
- ⑤通学距離が各地域の中間に位置する。スクールバスの運行では琴丘地域、八竜地域ともに30分程度で通学できる。
- ⑥中学校までの歩道・街灯が整備されている。

(2) 課題と解決策

- ①校地の一部に土砂災害特別警戒区域（体育館西側）が指定されている。現在中学生が使用していることを考えても、早期に改修工事等による対応が求められる。
- ②グラウンドの広さを最大限確保するため、校舎の建て方等の工夫が求められる。
- ③生徒の安全確保の視点から、スクールバスのロータリーの設置を考えるべきである。
- ④校地内を通る公道に関することや、山本中学校入口の信号機周辺の安全対策が求められる。

II. 琴丘中学校・ことおか中央公園周辺

(1) 建設の適地とする理由

- ①委員を対象とした意向調査において、第2候補地として54%を占めた。
- ②琴丘総合体育館やテニスコート等、スポーツ施設が最も充実している。また、琴丘森岳ICも近く、他校との交流にも便利な位置である。
- ③令和4年から令和7年度までの工事で、令和8年度に開校が期待できる。
- ④合併特例債等の活用ができ、財源について見通しをもって対応できる。
- ⑤山本・八竜の全域がスクールバスの対象となる。
- ⑥中学校までの歩道・街灯が整備されている。

(2) 課題と解決策

- ①校舎からスポーツ施設までの距離等を考慮し、新校舎の建設場所は現校舎の位置が適している。それに伴い建設と旧校舎解体の時期や対応の検討が求められる。
- ②ことおか中央公園内にある多目的広場を学校のグラウンドとして活用することについては、公園施設の除外申請等の対応が必要である。
- ③山本地域の金岡地区からの通学に時間を要するため、対応を考えるべきである。
- ④ことおか中央公園入口の安全対策が求められる。

4. 今後配慮すべき事

- (1) 統合に関する委員会等を開催して、目指すべき教育の在り方を早急に検討し、統合後の学校がスムーズにスタートできるよう努めること。
- (2) 将来を担う子どもたちの教育環境を第一に考え、特色ある学校づくりに努めること。
- (3) 統合を見据え、3つの中学校の生徒の交流に努めること。
- (4) 遠距離通学となる生徒や保護者の負担を考え、適切な通学支援を検討すること。
- (5) 統合に関する委員会の協議内容について、町民への広報に努めること。
- (6) 学校再編後の校舎等の利活用方法について、地域住民と共に検討すること。

5. おわりに

三種町立小・中学校再編準備委員会は、三種町の子どもたちの現状や将来を見据え、よりよい教育環境づくりを考えながら、統合中学校建設について検討を重ねてきた。

既存の中学校は、これまでに歴史を刻み地域の期待の中で育まれてきた学校であり、立地を含めてそれぞれによさがあり、地域の方々の学校への想いを改めて感じる事ができた。また、民有地においても見晴らしがよく、新たに建設できることなどのよさも感じられた。

建設候補地の選定については、じっくり時間をかけて考えていくべきという意見があった一方、子どもたちの現状を考えて、集団の中でより多様な考え方に触れる機会や、活気ある部活動等ができる教育環境づくりが必要との考えなどから、統合を急ぐべきとする多数の意見もあった。また、防災対応や通学路の安全性の検討、更には用地取得に関する諸課題を指摘する声など、多様な意見もあった。

本意見書は、未来を切り開いていく力をもった三種町の子どもたちのことを考えて作成した。今後とも子どもたちのために、家庭・地域と連携しながら、よりよい教育環境の整備を進め、三種町の教育の発展を期待するものである。

資 料

資料1 第1回 三種町立小・中学校再編準備委員会

資料2 第2回 三種町立小・中学校再編準備委員会

資料3 第2回 三種町立小・中学校再編準備委員会資料 ○課題と解決案

資料4 第3回 三種町立小・中学校再編準備委員会

資料5 第3回 三種町立小・中学校学校再編準備委員会「意向調査」結果

資料6 中学校建設候補地視察会、第4回三種町立小・中学校再編準備委員会

資料 1

小・中学校の学校再編について

～「第1回 三種町立小・中学校再編準備委員会」から～

6月29日(火)：琴丘地域拠点センター



6月29日、琴丘地域拠点センターにおいて第1回三種町立小・中学校再編準備委員会が開催されました。

この会議の委員は、小・中学校のPTAや幼稚園・保育園の保護者、自治会、校長会、学識経験者、一般公募から選出された方など、約30人で構成されています。

第1回目の会議では、教育委員会から現在までの経緯や学校再編の時期、統合小・中学校の設置場所等について説明がありました。準備委員会は、今回を含めて5回計画されています。

これまでの経緯等について ～教育委員会から～

令和2年度に提出された「小・中学校の在り方懇談会の意見書」などを参考に、総合教育会議等を経て、1月に学校再編整備計画を次のように策定しました。

- 小学校**
 - ・琴丘地域は現状維持で、山本地域および八竜地域は、令和9年度にそれぞれ1校に統合したい。
 - 山本地域**
 - ・令和4年度に下岩川小を森岳小に統合したい。
 - ・令和9年度に森岳小と金岡小を山本中学校舎(改修)に統合したい。
 - 八竜地域**
 - ・令和9年度に湖北小と浜口小を八竜中学校舎(改修)に統合したい。
- 中学校**
 - ・令和7年度中に山本中敷地内に統合中を新築したい。

- これらの計画について住民説明会や町議会では、中学校の建設候補地についての質問や再考を求める声がありました。それらを受けて今回の準備委員会では、教育委員会から統合中学校の候補地として「山本中学校敷地内」、「ことおか中央公園内」、「じゅんさいの館周辺」の候補地について、大まかな建設費用や活用財源、建設期間、各地域からの距離等について説明がありました。本準備委員会での協議内容等について、主な内容を紹介します。
- Q1** 新中学校の建設候補地として、八竜中学校の敷地や周辺を加えていただきたい。
 - A1** 建設候補地に加えて検討する。
 - Q2** 建設候補地について、準備委員会の委員で現地を視察してはどうか。
 - A2** 航空写真等を使い、候補地が分かるように示したい。
 - Q3** 財源等についてもっと分かりやすい資料や、協議したい。

た内容をまとめたものを配布してもらえないか。

A3 可能な限り要望に対応したい。

この他にも「学校統合の知見を高めるために有識者による講演会を計画してはどうか」、「将来的には小・中一貫校に対応できるような場所を選んではほしい」、「農地をつぶすのは好ましくない。町有地を有効利用するべきだ」との意見や要望がありました。準備委員会では今後、通学方法や安全面、求められる施設、中学校校舎の建設場所等について協議を深め、今年度中に意見書を教育委員会に提出する予定です。

学校再編情報コーナー
令和3年第3号
— 発行者 —
三種町教育活動推進員
長浜 中

小・中学校の学校再編について

～「第2回 三種町立小・中学校再編準備委員会」から～

8月5日(木)：琴丘地域拠点センター



前回の第1回三種町立小・中学校再編準備委員会では、小学校の再編整備計画（琴丘地域は現状維持。山本および八童地域は、令和9年度にそれぞれ1校に統合）については特に異論がなかったものの、中学校の新校舎建設場所について、これまでの候補地である山本中学校敷地（グラウンド）、ことおか中央公園（多目的広場・琴丘中学校敷地）、じゅんさいの館周辺（じゅんさいの館周辺または二ツ森地区内）、それに新たに加えた八童中学校周辺の4か所で検討を進めることになりました。

これを踏まえて第2回準備委員会では分科会方式とし、特に将来、自分の子どもを入学・進学させることになる現役世代の幼稚園・保育園、小・中学校の委員一人ひとりから、意見や要望を出してもらい協議しました。

各分科会での主な協議内容について紹介します。

*Gはグループ

幼稚園・保育園G

- 中学校の建設場所については、各地域とも近いことに越したことはないが特にこだわらない。どこでもよいので早めに決めてもらいたい。
- 通学距離が長くなれば、朝の準備等で保護者の負担が増えることが懸念される。スクールバス等を充実させてもらいたい。

るのは分かるが、子どもを第一に考えてほしい。

自治会G

- 統合が進んだ場合の現役世代である幼・保G、小・中Gの意見を大切にされた方がよいのではないか。
- スポーツ施設や高速IC等環境や利便性を優先した方がよいのではないか。
- 財政面で負担がかからない方がよいのでは。

- 国道付近に建設した場合には交通安全上、心配である。
- ハザードマップで、八童中は河川浸水想定区域、山本中は土砂災害警戒区域となっているがそれぞれ大丈夫か。

小学校・中学校G

- 中学校の建設場所は、地元建設してもらえればありがたいが、場所はどこでもいいため、スクールバスや安全面、部活動等の充実を図ってほしい。
- 現役世代の意見を尊重してほしい。
- 財政的な負担を将来に残さないようにしてほしい。
- 建設地選定に地元愛を発揮す

民生・学識・公募G

- 建設候補地の現地見学会やアンケートを実施してほしい。
- 現役世代の幼・保、小・中の意見を尊重してほしい。
- 育成する児童生徒の姿、目指すべき学校像など、しっかりと

た計画を立てて進めてほしい。
● 交通事情や街灯、地質調査等、安全面をしっかりと進めてほしい。
● 建設候補地について、いくつか絞ったり評価方式を進めたりしてはどうか。

このような内容が、それぞれの分科会から発表されました。

当日の準備委員会では、町教育委員会から中学校の建設候補地4か所の航空写真やシミュレーションの検討項目（①校舎・体育館の建設地②その他の必要な施設③学校までの距離④通学の安全性⑤スクールバスの利用※現在の基準6km以上⑥完成年度⑦用地買収の必要性）等の資料も提示され、それぞれの「良いと思うところ」、「課題と思うところ」や「疑問点」を出し合いました。

10月7日開催予定の第3回準備委員会では、各グループから出された内容について協議を深めていく予定です。

学校再編情報コーナー

— 発行者 —

令和3年 第4号

三種町教育活動推進員

長浜 中

資料 3

第2回 三種町立小・中学校再編準備委員会資料
○課題と解決案

山本中

通学路	<ul style="list-style-type: none"> ・信号機 ⇒ 9月議会でも指摘あり。関係機関との協議を通し対応。 ・信号機から入口 ⇒ 歩道あり。車線幅は約6m。県道約6mで同程度。 制限速度表示。街灯～有り ・入口のT字路 ⇒ 標識・停止線の設置、交通安全運動等。 ・校地内の坂道 ⇒ 現状。 ・校地内の幅 ⇒ 約5.6mで幅は確保されている。 *通路支障となる樹木伐採。 *ロータリーの検討。
防 犯	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地内に公道～利用者：1名、利用時間：日中、利用台数：1台(山中より闖取) *不特定多数の人は、入りづらい。
防 災	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害の恐れがあれば必要に応じて改修する。 ・土砂災害特別警戒区域 ⇒ 体育館の辺り。現状は避難訓練の実施で可。 *テニスコート下の崩れ ⇒ 業者の見立てでは、土砂崩れというよりは、松の木の倒木による崩れ。 ・河川氾濫区域 ⇒ 信号から学校までの道路が冠水したのは、H25年。 現在、河川改修工事進行中で改善されている。25年以降の河川の氾濫はなし。 ・軟弱地盤 ⇒ 山本中建設の際の「山本統合中学校敷地地盤調査」によると、地盤は建設に適していると報告されている。 ・過去二回の大地震 ⇒ 被害なし。 ・洪水・ため池災害時の避難場所である。
通学距離 と時間	<ul style="list-style-type: none"> ・6km以上は、基本的にスクールバスの利用。 山本中は、基本的に現状通り。下岩川・金岡地区はスクールバス利用。 他は、徒歩、自転車及び保護者送迎。琴丘地区(長信田・泉沢除く)、八竜地区(川尻除く)は、スクールバス利用。 発着時間想定(別紙シミュレーションによる) 琴丘地区 1天瀬川方面31分、2鹿渡方面18分 山本地区 1下岩川方面31分、2金岡方面45分 八竜地区 1大曲方面25分、2大谷地方面29分、3浜田方面28分
施 設	<ul style="list-style-type: none"> ・前回は、現在の校舎規模でのシミュレーション。 ・開校時の予定学級数から予想すると現校舎よりコンパクトになる。 ・グラウンドは、125.8m×98.1m。(250mトラック)
熊	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の出没状況は、無し。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・共励館付近の法面工事は、応急処置ではなく本格改修。 ・校門から野球場までは326.5m。校内の坂道を自転車に乗っての通行禁止。 ・ソフトボール場の広さは、あくまでも練習場としての広さの確保 ・校地内の勾配、高低差について～解消することは難しい。 ・車での送迎等での敷地内通行について～通行のルール作り。 ・中学校プールの建設は予定無し。使用の場合はB&G。

琴丘中・ことおか中央公園

通学路	<ul style="list-style-type: none"> 中央公園前の十字路の見通し ⇒ 信号等設置の要望
防 犯	<ul style="list-style-type: none"> 町道がある。施設利用者が通る。
防 災	<ul style="list-style-type: none"> 洪水・ため池、土砂災害の避難場所である。 沼は特に問題なし。
通学距離 と時間	<ul style="list-style-type: none"> 6 km以上は、基本的にスクールバスの利用。 琴丘中は、上岩川・鯉川地区はスクールバス利用となり、後は現状どおりで、徒歩、自転車及び保護者送迎。 山本地区と八竜地区は、スクールバス利用。 発着時間想定（別紙シミュレーションによる） 琴丘地区 ほぼすべてが自転車等の通学 山本地区 1 下岩川方面 38 分、2 大町方面 31 分、3 金岡方面 57 分 八竜地区 1 大曲方面 26 分、 2 大谷地方面 32 分、3 浜田方面 33 分
施 設	<ul style="list-style-type: none"> 校舎から各種施設への距離 総合体育館 755.4 m テニスコート 403.2 m グラウンド 382.4 m（多目的広場） グラウンドの広さ縦 120 m、横 90 m(多目的広場) スカルパ球場の使用 ⇒ 大会利用の球場で、普段の部活動での使用は不可。 現校舎と校地内野球場の位置交換は可能。しかし、校舎入口、各施設までの距離、採光等の面から、現校舎の位置がよいとの考え方もある。ただ、そうなると、校舎完成まで他の場所に移動。 中学校プールの建設は予定無し。使用の場合はB & G。 駐車場の確保 ⇒ 旧テニスコートを利用できる。 野球場とソフトボール場は、現在使用している広さと同程度。
熊	<ul style="list-style-type: none"> 近年の出没状況は ⇒ 令和3年度中学校付近で目撃情件報2件あり
その他	<ul style="list-style-type: none"> 施設間の距離・勾配、高低差について ⇒ 解消することは難しい。 安全安心対策について ⇒ 指導や広報等ソフト面での充実に努める。

八竜中周辺

通学路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校入り口が狭い ⇒ 改修工事。信号機設置を要望。 ・ 鶴川方面からの通学路が狭く危険 ⇒ 通学指導の充実。
防 犯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の周囲が公道である。人の出入りについては、今までと同様の対応が必要。
防 災	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土砂災害の避難場所である。 ・ 河川氾濫区域に指定されている。過去に浸水したことはない。 ・ 地震災害にやや心配はある。
通学距離 と時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6 km以上は、基本的にスクールバスの利用。 八竜中は、飯塚・追泊地区はスクールバス利用となり、後は現状どおりで、徒歩、自転車及び保護者送迎。 ・ 琴丘地区と山本地区(和田地区を除く)は、スクールバス利用。 ・ 発着時間想定(別紙シミュレーションによる) 琴丘地区 1 鯉川方面 44 分、鹿渡方面 24 分 山本地区 1 下岩川方面 44 分、2 大町方面 35 分、3 金岡方面 61 分 八竜地区 バス送迎の対象なし
施 設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野球場への距離 約 600 m 校地外にある ⇒ 移動ルートの確立。 野球場までの安全確保。 国道横断のための歩行者専用信号等の設置要望 ・ 野球場やテニスコートの土日利用 ⇒ 現状では一般優先 ・ 敷地が狭い ⇒ テニスコートの確保が状況により困難。
熊	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近年の出没状況は、無し。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬道や風の強さ ・ 安全安心対策について ⇒ 指導や広報等ソフト面での充実に努める。

ニッ森周辺

通学路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国道の交通量が多い ⇒ 徒歩・自転車通学の安全指導強化。 ・ 交通安全上の問題あり ⇒ ガードレール、歩道、街灯等の整備。(国県と協議) ・ 送迎時の交通事故が心配 ⇒ 危険個所の洗い出しや冬道での危険個所を示す。
防 犯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防犯のため、フェンス等が必要 ⇒ 設置を検討。
防 災	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田圃造成地で軟弱地盤では？ ⇒ 地質調査で明らかにしていく。 ・ 丘の上、崖は大丈夫か ⇒ 必要であれば対策をとり対応する。
通学距離 と時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6 km以上は、基本的にスクールバスの利用。 スクールバス利用地区は、他の候補地より少ない。 徒歩、自転車及び保護者送迎の地区が多くなる。 ・ 発着時間想定(別紙シミュレーションによる) 琴丘地区 1天瀬川方面 21分 山本地区 1下岩川方面 28分、2金岡方面 54分 八竜地区 1大谷地方面 23分、2浜田方面 23分
施 設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土地購入のための町財政は大丈夫か ⇒ できるだけ有利な起債を活用して対応。 ・ 建設コストが高い ⇒ できるだけ有利な起債を活用して対応。 ・ 農地の転用は可能か ⇒ 手続きはあるが、地権者の意向が不明である。 農業振興地域の農用区域農地に指定されている。除外申請許可の見通しは不明確。 ・ 用地買収は、現実的か ⇒ 見通せない状況である。
熊	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近年の出没状況は、無し。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬場の吹雪・路面凍結・吹き溜まりが心配 ⇒ 自然相手であるが、注意箇所の把握が必要。 ・ 完成までの時間がかかる ⇒ 農地転用の許可や農振除外、スムーズな買収に期待。 ・ 保護者の負担が大きい ⇒ 軽減を図れるよう、対応可能なことを進めていく。

小・中学校の学校再編について

～「第3回 三種町立小・中学校再編準備委員会」～

10月7日：琴丘地域拠点センター

8月に行われた第2回準備委員会では、中学校の新校舎建設候補地である①山本中学校、②琴丘中学校、③八竜中学校、④二ツ森周辺の4つの候補地について、「良いと思うところ」、「課題としたいところ」を挙げてもらいました。その結果、4つの候補地については、それぞれの良さや課題があることが浮き彫りになりました。

今回の第3回三種町立小・中学校再編準備委員会では、各候補地の課題をどう解決できるか、町教育委員会から現状や考えられる対応等について説明がありました。

主な内容を紹介します。

【課題解決のポイント】

- ① 通学路
- ② 防犯
- ③ 防災
- ④ 通学距離と時間
- ⑤ 施設
- ⑥ 熊
- ⑦ その他

山本中学校

- ① 通学路について
 - ・校舎入口の信号機のある変則十字路の安全確保は、関係機関と協議・要望が必要
 - ・信号機から校門までは歩道あり、道幅は県道と同じ6m
- ② 防犯について
 - ・敷地内の公道利用者は1人のみ
- ③ 防災について
 - ・土砂災害の恐れがあれば必要に応じて改修が必要
 - ・河川氾濫は、平成25年以降なく、河川改修工事が進行中
 - ・現山本中学校建設の際の敷地地盤調査では、建設に適していると診断され、過去2回の大地震（日本

琴丘中学校・ことお中央公園

- ① 通学路について
 - ・中央公園前の十字路付近の信号機設置については、関係機関と協議・要望が必要
- ② 防犯について
 - ・沼は特に問題はなく、中学校は災害時の避難場所である
- ③ 通学距離と時間について
 - ・鹿渡は現状通りで、上岩川、鯉川、山本・八竜地域はスクールバス対応となり所要時間は山本地域が最大57分、八竜地域が最大33分
- ④ 施設について
 - ・校舎から各運動施設までの徒歩での移動距離は、総合体育館755m、テニスコート304m、多目的広場382m

八竜中学校

- ① 通学路について
 - ・中学校の入口が狭いため、改修が必要で、信号機設置については、関係機関と協議・要望が必要
- ② 防犯について
 - ・河川氾濫区域に指定されているが、過去に浸水被害はなし
- ③ 通学距離と時間について
 - ・八竜地域は飯塚、追泊がスクールバス対応。他地区は現状通りとし、琴丘・山本地域（和田を除く）はスクールバス対応となり、所要時間

二ツ森周辺

- ① 通学路について
 - ・国道の交通量が多いため、徒歩・自転車通学の安全指導強化が必要
 - ・安全対策として、ガードレールや歩道、街灯等の整備が必要となり、関係機関と協議・要望が必要
 - ・送迎時の交通事故を防ぐため、危険箇所の洗い出しや冬道での危険箇所の提示が必要
- ② 防犯について
 - ・防犯のため、フェンス等を設置する必要がある
- ③ 防災について
 - ・建設に適した場所かどうかについて地盤調査を実施する必要がある
- ④ 通学距離と時間について
 - ・6km以上（全町共通）がスクールバス対応となり、徒歩や自転車、保護者送迎の地区が多くなる。バスの所要時間は琴丘地域が最大21分、山本地域が最大54分、八竜地域が最大23分
- ⑤ 施設について
 - ・土地購入費や建設費には、有利な起債を活用して対応可能
 - ・農地から建設地に転用する場合には手続が必要で、地権者の意向は不明
 - ・建設候補地は、農業振興地域の農用地区域内農地に指定されており、

中学校の新校舎建設候補地に係る意向調査結果

建設候補地	山本中	琴丘中央公園	八竜中	二ツ森周辺
第一候補	16 64%	4 16%	3 12%	2 8%
第二候補	4 17%	13 54%	3 12%	4 17%

※委員数29人中欠席1人 有効票 第一候補地25人 第二候補地24人

農振除外および農地転用許可の見通しは不明確・用地買収については見通せない状況

それぞれの候補地が抱える課題について、町教育委員会から以上のようない説明がありました。

その説明に対し、グループ協議や全体会での質疑を行ったのち、出席委員に対して意向調査（第一、第二候補地）を行いました。

結果は次のとおりです。今後、準備委員会では、11月3日に現地視察会を行い最終的な確認をし、その後、11月12日に第4回準備委員会を開催し、さらに検討を進めていきます。

学校再編情報コーナー

令和3年第5号

— 発行者 —

三種町教育活動推進員

長浜 中

候補地	山本中	琴丘中・中央公園	八竜中	二ツ森
第一候補	16	4	3	2
%	64	16	12	8
第二候補	4	13	3	4
%	17	54	13	17

第1候補

山本中学校	16	・予算が安くすむ。・完成までのスケジュールが早い(早期完成)。
		・土砂災害の恐れに対しては町の責任(学校設置者)で対応可能と思われる。
		・町が最初に推薦した場所なので。
		・土地が広い。・将来、小・中一貫校にしやすい。
		・中間点である。・施設等の条件がよい。
		・通学時間。
		山本球場や山本体育館を活用することで施設が充実している。
		・全体的に見てバランスよし。課題はあるが、いずれもクリア可能。トータルでみて適地。
		・二ツ森は不透明すぎ最初から候補地として見ていない。そうすると3地区の中心付近であるのが山本中学校となるから。
		・メリット、デメリットを考えた際、一番平均的。
・敷地内にすべておさまる。		
琴丘中・中央公園	4	・施設が整っている等、全ての面で優れている。
		・IC(交通)・教委・周辺施設
		・交通の便がよく、他校・地域との交流ができる。・保護者の送迎の負担が少ない。・運動施設が充実。・先行統合による部活動の充実が可能。・施設利用者が多く、校地の安全性が高い。
八竜中学校	3	・フラットな土地や公園、体育館がある。・町の中心地でもあり、地域に開かれている。・若干の狭状はあるかも。
		・校舎全体を見渡せる。・国道の近くである。建設費が安い。
二ツ森周辺	2	・安全である。・等距離である。・財政負担が少ない。
		・町の間中であるし、通学路の整備などをして安全な登下校ができるようにする。・将来を見据えた立派な校舎が完成できる。・何より管理の面でよい。
二ツ森周辺	2	・町の将来を担う子どもたちを教育する場なので、新しい場所が町の中心となる場所が望ましい。
		・検討時間が短く、現状では回答できない。
その他	1	・検討時間が短く、現状では回答できない。

第2候補

山本中学校	4	・理想に近い建設。
		・距離的に平等感がある。・自然に恵まれ環境がよい。
		・通学時間が平均的。
琴丘中・中央公園	13	・施設が充実している。・高速、駅等の交通の便がよい。
		・施設の有効利用が可能である。
		・スクールバスを多くの人が利用できる。・校舎の建築が早い。
		・ことおか中央公園と併用することで、最新で良好な環境を期待できる。
		・八竜と琴丘を比較すると駅や高速道路ICがあり、交通の利便性を感じるのが琴丘だから。
		・現校舎の位置に建設すれば収まりがよいのではないかと。
八竜中学校	3	・安全である。・周辺環境が整っている。・一部を除き通学の便もよい。
		・山中、琴中とくらべればベストではないかと思う。
二ツ森周辺	4	・教育ビジョンを反映させた学校づくりが可能。農地転用や買収など不確実な要素が懸念材料。
		・3方向から見て中央である。土地の広さ等、よい面が多い。土地取得の問題がスムーズに解消できるのであれば…。
		・将来を見越して自由に学校の配置ができる。・町の中心であり、通学も旧3町同じくらいである。
二ツ森周辺	4	・既存の中学校はそれぞれに課題がある。少し年数がかかっても、安全・安心なところに建設することを強く望みます。
		・検討時間が短く、現状では回答できない。
その他	1	* 第二候補地は意向なし。

小・中学校の学校再編について

中学校建設候補地視察会（二ツ森周辺、八竜中、山本中、琴丘中・ことおか中央公園）
 「第4回 三種町立小・中学校再編準備委員会」



山本中学校グラウンド

【中学校建設候補地視察会】
 について

11月3日、準備委員10人とオプザーバー2人の計12人が参加し、建設候補地の視察会を実施しました。視察は、二ツ森周辺、八竜中学校、山本中学校、琴丘中学校・ことおか中央公園の順で行われました。視察会では、二ツ森を通る農免道路の管理は町であり、歩道等を増設する場合には必要な土地買収や改修

工事が伴うこと」と、「山本中学校体育館脇の一部が秋田県の土砂災害特別警戒区域となっているが、現在まで災害が発生していないため、県担当者からは改修工事を行う計画はないこと」

が新たに説明されました。しかし、山本中学校は、現状子どもが通っている校舎であるため、調査を行いながら、改修工事を含めた必要な対応を行うことも重ねて説明がありました。

今回の視察会では、候補地それぞれの良さや課題について再確認するとともに、特に課題に對しての対応策について事務局より詳しく説明がありました。

【第4回 三種町立小・中学校再編準備委員会】について

11月12日、第4回準備委員会が開催され、統合中学校の建設候補地として山本中学校と琴丘中学校・ことおか中央公園の2か所を適地として絞り込み、意見書の作成に取りかかることを決めました。

会議では、「視察会を踏まえ、たうえで再度意向調査をしてほしい」と「文科省から出されている『中学校施設整備指針』を

基に、再度評価をし直してはどうか」と言った意見が出されました。これに対し、「今回の学校統合を進める理由の一つに、複式学級の解消があり、急がなければならない。このまま先延ばしにすれば一番の犠牲者は子どもたちになる。スケジュールを守る」ことが大事ではないか」と

「文科省から出されている資料はあまり具体的ではないと感じた。それよりも三種町の実情をよく知っている自分たちの意見が大切だと思う。意向調査でも第一候補地である山本中学校、第二候補地である琴丘中学校・ことおか中央公園が過半数を占めていることから、この二つに絞って検討を進めるべきではないか」といった意見が出されました。その結果、前述の2か所を候補地として意見書をまとめ、いくことを確認しました。

今後は、準備委員会の正副会



第4回準備委員会

長と教育委員会事務局で構成する起草委員会で意見書（案）を作成し、それを基に第5回準備委員会で意見書を取りまとめる予定です。その後、町の総合教育会議で候補地を決定し、議会に報告した後、町民の方がたへ報告会を開催する予定です。

学校再編情報コーナー

— 発行者 —

三種町教育活動推進員

長浜 中

令和3年 第6号